

拜書啓

閣下愈々御堅勝に改

奉送賀表昨野生頑快

依旧涿々消日罷在ま間

他事御放念可下ま

却説唐突恐縮に至りに

奉存ま得共野生壹萬

田程御貸与に道相開き

と間敷哉御鴻恩決して

忘却不仕ま今之也を要し

理由曰實は野生遺傳の資

産地價に於て七千有餘田流

動資本即ち貸金に於て冬万

餘田は所有致居り申夫然に

殊更壹万田を御之所以に

目下金融必迫に際し農商

民の困難一方を成就中農

民の如きは昨午未嘗有の虫豸

為は貸金延期を訴ふるに

と云ふ尚ほ由者續に貸与を願



為先貸金延期を訴ふるし
多に尚ほ由者債の貸与を願
ふ者尠少なるを此場合於て
可成低利を以て貸せんと欲
す能はざるに在りて地方の習慣上
自家不動産を抵当に入らざれば
信用上外見を厭ふ所の有之申
加之従来土地を有する者之を賣
却せんご欲し其價格も廉くも
杖柳井津町接續の地に
将来実業上有望の土地
空しく買取を得ず誠道徳
に堪へるに御座る已に御座
知し事にはまも杖柳井津町の地位
は別稿（小生の土地に於て各受すべし
雑誌の撰文に違つたも）の如きものに
て實に将来有望ありとは申さ
ざる可夫不肖此際採先此地
方に希望を博し前途の畫策
を以て度く由未縣民保守流
れ先輩山宗様常々依頼心
下の獨立の精神を欠き残念の
至りいま其未の大勢力の樞軸
依て先づ不肖を顧みず實力を
大いに公私を同一躍勇力飛
改度存念希に也

依て先づ不肖を顧みず實力を
大いに公私を問はず一躍勇力飛
改度き存念帝に絶へず次を御
聖ま蓋し野生の地方に於ては敢て
一步を讓らば殊に秋柳井津町に在
つては二三資産家を除けば其下の
土田を而して今や此歎願を乞
ふ所以の實力を以て克分の運用
を示す能はざるに御聖ま若
し目下の際稍々活用を途にせん
須らく襟先を以て眼を注ぎ數
年後吾手腕を以て一般人に
嘆せしめ度き存念の外に夫
素より甚る萬田位の御貸与を
請ふに付は依令其盡策を以て
水泡帰せしむらんせと支弁の方
法は此に上て凡の美に御聖ま之
小か方法の期限を五年と相定
め
（五十年の後は貸与を
世に譲りたる也）
利息は六朱乃至
八朱の耗田に於て相定む可成餘裕
を頼む置き償却法の豫算は
年々減損する生あるに収益二十
田を引去り不申左に安んずる
償却するを得べし存し申す書

法は此に在りて其の美は御聖美之
小が方法の期限を五年と相定
八朱の耗田は往て相定は不可成餘裕
を頼置道き、償却の法の豫算は
年々次貝産生するに託収益二十
田を引去り不申左に安気本に
償却するを得べしと存し申す書
意を盡し御推讀可し下す
附言 徴衷御酌量の上萬一野生
希望を御許容と承る来地方の
面目持口の道に如何に磁御
意思を伺はし得は上京拝眉に
上萬縷御答可申上ま此は榮
重し一才を捧ぐ嘆頼り
度く密に負答相待ち居り

申す

敬白

静治

大隈閣下

九月二日
之秘

柳井津商報發刊ヲ祝ス

琴岳 散史

商業地ノ昌盛ハ其土地天然ノ關係ト人民氣風ノ抱
合セル作用ニ基クカ如ク曾テ昌盛ヲ致シタル商業
地ノ衰頹モ亦天然ノ關係若クハ人民氣風ノ壞敗ニ
因ラズンバアラズト宜ナル哉言ヤ見ヨ古來樞要ノ
地ヲ占メタルノ地方ニシテ交通區域ノ擴張スルニ
由リ從來活動力ヲ缺キ居ル周邊ノ土地一朝ニシテ
活動力ヲ生シ其地位ヲ讓ルベキモノアリ之レ即チ
其重要ナル道路ヲ開通シ又其重要ナル交通具ヲ改
長シ或ハ機關ヲ整備スル等ノ現象ヨリシテ地方ノ
富力ヲ吸收スルニ至レバナリ而シテ又人民ノ徳義
政治、經濟上ノ氣風（人民ノ氣風ニ就テハ他日更
ラニ論スル所アルベシ）ハ商業ノ盛衰ニ最モ緊要
ノ關係ヲ有スルモノニシテ此氣風ノ發達ハ外部

柳井津商報發刊ヲ祝ス

琴岳 散史

果シテ我柳井津が縣下ニ於ケル大坂トシテ大過ナ
カラシカ吾人ハ商業上第一ノ地位ヲ占ムルモノナ
リ而シテ此樞要地ヲ占ムルニモ拘ラス末ダ商業地ト
シテ一步ヲ輸スル所以ノモノハ何ソヤ吾人ハ從來
人民ノ氣風能ク商業地タルニ愧ヅルナキヤナ疑フ
古人曰シ天ノ利ハ地ノ利ニ如カス地ノ利ハ人ノ和
ニ如カスト之レ管ニ兵戰ノ六韜トシラ甘ゾマキ
モノニアラズシテ商戰ノ三畧タルヲ覺悟セザル可
カラズ見ヨ改正條約ノ實施モ既ニ焦眉ノ急ヲ告ケ
延ヒテ資本、知能、及ヒ經驗ヲ有スルノ外人亦將
サニ我實業界ニ進入馳驅セントス此時機ニ際會シ
タル我人民ハ宜シク作戰ノ方法ヲ講ズメシ商戰ノ

希世の佳話容れし所東比方
 面目恃り之れ道に如何の確御
 意思を伺ひを得上京下眉
 上萬縷御答可申上まじ此途
 重し一才を捧ぐ嘆願
 度く密に負各相待ち居り

申す

敬白

静治

九月二日

大隈閣下

柳井津商報發刊ヲ祝ス

琴岳 散史

商業地ノ昌盛ハ其土地天然ノ關係ト人民氣風ノ抱
 合セル作用ニ基クカ如ク曾テ昌盛ヲ致シタル商業
 地ノ衰頹モ亦天然ノ關係若クハ人民氣風ノ衰敗ニ
 因ラズンバアラズト宜ナル哉言ヤ見ヨ古來樞要ノ
 地ヲ占メタルノ地方ニシテ交通區域ノ擴張スルニ
 由リ從來活動力ヲ缺キ居ル周邊ノ土地一朝ニシテ
 活動力ヲ生シ其地位ヲ讓ルベキモノアリ之レ即チ
 其重要ナル道路ヲ開通シ又其重要ナル交通具ヲ改
 良シ或ハ機關ヲ整備スル等ノ現象ヨリシテ地方ノ
 富力ヲ吸収スルニ至レバナリ而シテ又人民ノ徳義
 政治、經濟上ノ氣風(人民ノ氣風ニ就テハ他日更
 ラニ論スル所アルベシ)ハ商業ノ盛衰ニ最も緊要
 ノ關係ヲ有スルモノニシテ此氣風ノ發達ハ外部ニ
 於ケル種々ナル新情勢ヲ利用スルノ策ヲ講シ縱令
 天然ノ關係不利ナル所アルモ亦其土地ヲシテ衰頹
 ニ歸セシメザルアリ要之土地天然ノ關係若クハ人
 民ノ氣風ガ全然商業地ノ盛衰ヲ支配スル原動力ト
 云ハザル可カラズ

果シテ我柳井津ガ縣下ニ於ケル大坂トシテ大過ナ
 カランカ吾人ハ商業上第一ノ地位ヲ占ムルモノナ
 リ而シテ此樞要地ヲ占ムルニモ拘ラス末ダ商業地ト
 シテ一步ヲ輸スル所以ノモノハ何ソヤ吾人ハ從來
 人民ノ氣風能ク商業地タルニ愧ヅルナキヤ疑フ
 古人曰ク天ノ利ハ地ノ利ニ如カス地ノ利ハ人ノ和
 ニ如カスト之レ管ニ兵戰ノ六韜トシラ甘ソズベキ
 モノニアラズシテ商戰ノ三畧タルヲ覺悟セザル可
 カラズ見ヨ改正條約ノ實施モ既ニ焦眉ノ急ヲ告ケ
 延ヒテ資本、知能、及ヒ經驗ヲ有スルノ外人亦將
 サニ我實業界ニ進入馳驅セントス此時機ニ際會シ
 タル我人民ハ宜シク作戰ノ方法ヲ講ズメク商戰ノ
 組織ヲモ設備スベシト雖モ須カク先ヅ和合團結ノ
 畫策ハ目下ノ要務タラザル可カラザルナリ即チ之
 レ柳井津人民ガ新情勢ヲ利用セントスルモノニシ
 テ吾人ハ今更往時ヲ追想シテ練言ヲ陳スルノ益ナ
 キヲ信ズルト同時ニ將來ニ向テ大ニ民人ノ氣風ヲ
 養成スルニ切ナル叫バント欲スルモノナリ

柳井津商報發刊ヲ祝ス

琴岳 散史

(完)

此 報 發

右頁今岳は野生の草花にて老地高報に載せし故文へ返す
 柳井津商報



伏乞親展

東京市牛込尾早稻田
八隈重信殿閣下

書留 柳井局 233



緘



九月二日

神田静治

様

山口縣周防國玖珂郡
柳井津町